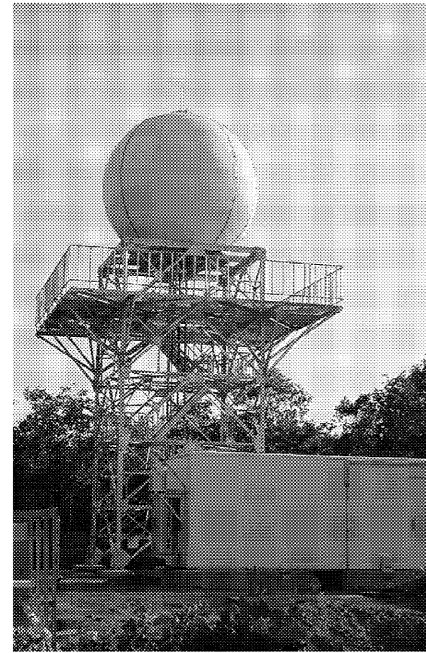


## 大樹町の多目的航空公園



多目的航空公園内に完成した降雨観測用のドップラーレーダー

### 通信・放送 機構が設置 降雨地域など把握

【大樹】町多目的航空公園に、降雨観測用の「気象ドップラーレーダー」が完成した。国が進める無人飛行船による通信放送・地球観測システム「成層圏プラットフォーム計画(SPF)」に関連し整備した。来年度以降、同公園で始まる60級級の飛行船を使った「定点滞空飛行試験」で利用される。(浅井文人)

SPFで通信分野の研究した。突開発を担当する総務省 大気中の水蒸気に向けて電波を発生し、地上に戻って電波の強弱を把握することにより、実験場となる同公園から半径100キロ圏内で、雨が降

降雨の強弱を読みとることが出来る。実験で飛行船が離陸できる天候条件かどうかを、事前に判断する際などに役立てられる。

レーダーは、航空公園滑走路南側の約1000平方メートル敷地に設置。高さ10メートルの鉄塔上に、レーダーを収納した直径5メートルのドームが備え付けられている。敷地内には観測舎もある。

風を観測するためにすでに整備されたVHFレーダーなどと合わせ、10月下旬から稼働を開始。定点滞空飛行試験に備え、統合的に気象データの収集を始める。